

経営情報学会 2019 年秋季全国研究発表大会

遊橋裕泰（ゆうはし ひろやす） 静岡大学情報学部

いま、様々な産業において、ICTを活用した新たなビジネスモデルが登場し、ゲームチェンジが起きつつあります。そして企業には、市場の破壊的変化に対応しつつ、第3のプラットフォーム（クラウド、モビリティ、ビッグデータ／アナリティクス、ソーシャル技術）を活用し、仮想空間と現実社会の両面でユーザエクスペリエンスを向上させることが求められています。

経営情報学は、まさにこのデジタルトランスフォーメーション（DX: Digital Transformation）を促進させる実学として、社会的な役割を果たすことができるのではないのでしょうか。このような想いから、秋大会では「デジタルトランスフォーメーション（DX）が拓く新たな地平」をテーマとさせていただきます。

2019 年秋季全国研究発表大会は、10 月 19・20 日の両日、静岡大学浜松キャンパスにおいて開催されました。また、大会に先立ち、10 月 18 日にエクスカーションを実施しました。

全日程を通じて、59 件の口頭発表（うち 12 件が企業事例セッション）、30 件の学生ポスター発表、3 件の研究部会セッション、4 件の特別セミナー／ワークショップ、2 件のスポンサーセミナーが行われ、会員・非会員合わせて 184 名が参加者する盛会となりました（うち懇親会参加：74 名）。以下、時系列で報告させていただきます。

1. エクスカーション（大会前日）

大会前日のエクスカーションでは、株式会社 ROKI を訪問しました。

ROKI 社は、自動車等に使われているろ過器の開発・製造を行っている Tier1 メーカーであり、そのグローバルビジネスの中核となっている本社および R&D センターを見学しました。また、IT 室長の小野田明弘氏より、同社の ICT 活用や建築物の運用と一体となった価値創造の取り組みについて説明いただきました。



ROKI 社見学の様子

2. 大会一日目

大会一日目は、開会式・基調講演・企業事例セッション・ポスターセッション・懇親会等を行いました。

(1) 開会式

開会式では、妹尾大学会長や開催校からの挨拶の後、2018 年度論文賞の発表が行われました。論文賞は、2018 年 6 月刊行の第 27 号 1 巻に掲載された、Takumi SHIMIZU「Who Becomes a High Performing Leader in Knowledge Sharing Online Communities?」が獲得しました。2020 年度の全国研究発表大会にて記念講演が行われることになります。

また、午前中に行われた学生ポスターセッションから、以下 5 件の学生優秀発表賞が選ばれました。

- 明治初期の社会が求めた知識の多角的な価値に関する考察—お雇い外国人の明細書を用いた実証研究
白石梨紗（東京理科大学）、大江秋津（東京理科大学）
- 最低賃金が生産性に与える影響の都道府県別データ分析
馬渡栄嘉（東京工業大学）、後藤美香（東京工



学生優秀発表賞の学生たち



経済産業省 和泉憲明氏

業大学)

- 最適拠点配置への待ち行列モデルの利用
池ヶ谷克基（静岡理科大学）、大場春佳（静岡理科大学）、水野信也（静岡理科大学）
- 自動車関連産業の海外拠点の自律性と文化的距離—ネットワーク分析とホフステッド指数を用いた実証研究
関傑熙（日本大学）、西脇暢子（日本大学）、大江秋津（東京理科大学）
- PBLにおける学習者の同質性と多様性が活発な発言に与える影響—社会人によるサプライチェーンゲームを用いた実証研究
四海濤（日本大学）、河合亜矢子（学習院大学）、柴直樹（日本大学）、大江秋津（東京理科大学）

(2) 基調講演

基調講演では、和泉憲明氏（経済産業省商務情報政策局情報産業課・企画官）より「企業競争力の強化に向けたデジタルトランスフォーメーション推進と政策展開」と題してご講演いただきました。

和泉氏から、経済産業省が2018年9月に発表したDXレポートの背景となる状況や、産業戦略という観点からの政策展開についてご紹介いただきました。

(3) 企業事例セッション

産業界の実務家に実践例や経営情報学に関わる技術・サービスを紹介してもらい、情報交換を行うセッションを実施しました。以下3件の報告が優秀

報告賞に選ばれました。

- 古参・地方・中小・ソフトウェア企業の第4次産業革命への対応
森川恭徳（株式会社モアソンジャパン）
- AI-OCR「DX Suite」企業事例と今後の可能性
梅田祥太郎（AI inside 株式会社）
- 新たな不動産テッククラウドサービス「写真一発XYZ」不動産会社の物件調査革新
村松直彦（株式会社ドローン・アンド・カンパニー）

(4) Paper Development Workshop (PDW)

Park Jaehyun 氏（京都工芸繊維大学・准教授）をコーディネーターとして、国際会議や国際ジャーナルに投稿していくこと目的としたワークショップが開催されました。

(5) 特別セミナー①

大堀耕太郎氏（富士通研究所人工知能研究所・主任研究員）を座長に、「実現場への導入を加速する新たなAI」と題したセミナーが行われ、富士通研究所が開発したAI「Wide Learning」の活用事例等が紹介されました。

(6) ランチョンキャリアセミナー

大会スポンサーである株式会社リサブリックの提供で、トヨタシステムズ社から学生を対象に「TOYOTA × ITの仕事とは？」と題した講演が行われ、

大会参加学生たちから好評を得ました。

3. 大会二日目

大会二日目には、特別セミナー・特別講演・経営情報学会将来構想会議報告等を行いました。

(1) 特別講演

特別講演では、藤田研一氏（シーメンス株式会社・代表取締役社長兼 CEO）より「シーメンスが目指すデジタルエンタープライズ」と題してご講演いただきました。

シーメンス社がビジネスの対象を替えつつ成長してきたトランスフォーメーションの歴史を振り返った上で、同社が推進する製造業のデジタルトランスフォーメーションについて、ご紹介いただきました。

(2) 将来構想会議報告

妹尾会長より、9月6日-7日の日程で開催された



シーメンス 藤田氏



将来構想会議を報告する妹尾会長

JASMIN 超会議（将来構想会議）の報告が行われました。同会議では、経営情報学が発展を目指すべき分野や今後の学会活動を検討したことが紹介されました。

(3) 特別セミナー②

飯島淳一氏（東京工業大学工学院経営工学系・教授）と森本千佳子氏（東京工科大学コンピュータサイエンス学部・准教授）をファシリテータに、LEGO® SERIOUS PLAY® ワークショップが行われました。

会議や重要な意思決定の場面で、LEGO® ブロックを使ったコミュニケーションがクローズアップされており、その有効性を体験できる機会となりました。

(4) 特別セミナー③

出口弘氏（東京工業大学情報理工学院・教授）を講演者に、「実物簿記によるマイクロプロジェクトベースの原価管理とマネジメント」と題したセミナーが行われました。

マイクロプロジェクト単位での原価管理を中心にダウンサジングされたマネジメントのための理論とその情報システムが紹介されました。

(5) ランチョンセミナー

大会スポンサーである株式会社 NTT データ数理システムから、「S4 Simulation System による人流シミュレーションのご紹介」と題した講演が行われ、人流シミュレーションの基本的な解説や、モデリング手法が紹介されました。



LEGO® SERIOUS PLAY® ワークショップの様子

今大会では基調講演など各種企画を通じて、IoT導入によるビジネスプロセス変革や、データアナリティクスからの価値創造など、DX推進に資する議論が積極的に展開されました。

また、ご参加いただいた皆様のおかげで、デジタルイノベーションを加速させる斬新な口頭発表・ポ

スター発表を集めることができました。

妹尾会長はもとより、学会理事、セッション座長、実行委員・プログラム委員、現地スタッフの尽力で、盛況のうちに終えることができました。厚く御礼申し上げます。